

第7回庁舎建替検討委員会記録

日時 令和2年10月16日（金）午後6時00分～午後7時30分

場所 市役所大会議室

1. 開会

2. 議事

【協議事項】

(1) 根室市新庁舎建設基本計画（素案）について

（説明：事務局）

(D委員)

建物としての概算事業費がおおよそ40億～45億ということだが、その予算の中で今までに検討や協議を重ねてきたものが満足に行えるのか。これから基本設計に入ると細かいところまで決めていくことになると思うが、色々な検討組織によって出された意見や、様々な要望などをトータルで考えた時に、今の段階でこの予算内で概ね足りると考えているのか。

(事務局)

庁舎の面積や金額については、内部の協議においても、できるだけコンパクトな庁舎にするべきだという意見や、逆にもっと経費がかかるのではないかという意見など様々な意見が出されているところである。

現時点ではできるだけコンパクトな庁舎を目指すという方針を基に、この面積の中で創意工夫を行い、市民や職員が利用しやすいような庁舎を目指していきたいと考えている。

(D委員)

あまり予算を窮屈にして、完成した庁舎の満足度が低いものにならないよう、よく検討を行っていただきたい。

(A 委員)

今まで検討されてきたものが、本日の素案の中はかなり集約され、整った形になっていると感じたところである。私の提案した議会に関する意見は、議会から提出された要望書を重視していただければと思う。その他に、私の発言の中でもう少し考慮していただきたいと思うのが、景観の部分である。庁舎の緑の部分は現状より少なくなることが予想されるので、ときわ台公園と庁舎の緑の繋がりを意識して、整備を行っていただきたい。また、他市では駐車場を芝生にして、臨時駐車場や除雪時の雪捨て場などとしての活用を行っているところもあるので、長期に渡り維持管理費のかからない方法を検討していただきたい。

(事務局)

いただいた意見を参考にさせていただき、今後検討を行っていききたい。

(B 委員)

環境への配慮について、何か目標となる指標の設定などは考えているのか。例えば、古くなっているがCASBEE（建築環境総合性能評価システム）でどれ位の評価を目指すなど、指標と結びつけるのはなかなか難しいかもしれないが、考えているものがあれば教えていただきたい。

(事務局)

ZEB（Net Zero Energy Building）を意識されたご意見と解釈させていただくが、今回の基本計画の中でも環境への配慮として、再生可能エネルギーの活用を検討しているところである。しかし、根室市庁舎の敷地環境を考えるとであればZEB Readyも厳しいのが現状である。ただ、諦めたという訳ではなく、できる限りエネルギー消費量を減らし、再生可能エネルギーを活用するなどの取組みについて、今後も検討を行っていききたいと考えている。

(F 委員)

新庁舎のICT化を突き詰めていくのであれば、ペーパーレスという話になると思うのだが、そうすると執務室のレイアウトにも関わってくる話になる。

先日、東京の知り合いの企業と話をしたのだが、そもそもオフィスに個人のデスクという概念がないとのことであった。打合せを行うスペースと立ちながらノートパソコンを使えるスペースがあるのみとのことであり、IT企業だからできることなのかもしれないが、市役所でペーパーレスを進めるのであれば、ユニバーサルレイアウトや従来のレイアウトにおいても、デスクをコンパクト化するのもスペースを有効活用するための方法であると感じたところである。

(G委員)

前日も意見を述べたが、これから高齢者の方が増えていくことが予想されるので、第一にそういった方たちにもわかりやすい案内や看板について考えていただきたいと思う。

(事務局)

窓口の案内機能や、利用しやすい窓口に関しては素案のp.18に記載をしているが、来庁者が迷わず目的の窓口を利用できるよう、案内表示の方法、大きさや配色について今後も検討を行っていききたいと思う。

(I委員)

p.29に工事費の縮減として、既存庁舎の地階を活用するとあるが、既存庁舎も古く、コンクリートの劣化などがあると思う。それについては修理を行って活用をされるということか。

(事務局)

現庁舎の耐震性については、耐震診断の際にコンクリートの試験も行っているが、経年数に比べるとコンクリートはそこまで劣化していないという結果も出ている。しかし、もちろん地階を活用するうえで必要となる補強工事等を踏まえた計画となっているので、その点についてはご安心していただきたい。

(K委員)

新庁舎は現在の職員用駐車場に建設されるということだが、工事中の職員の駐車場はどうなるのか。

(事務局)

現時点では未定であるが、職員用の駐車場は約60台程度が必要となるので、近隣の民間の土地や駐車場などを借りることなどを考えている。

(C委員)

建設工事中、一般市民が駐車できる台数はどれくらいのものなのか。

(事務局)

現庁舎の正面駐車場の台数は38台であり、その他に通路など前庭に駐車している台数を含めると約60台程度になる。建設工事に入ると、一部のスペースが立ち入りできないなどの影響が出ると思うが、現在の前庭にあるシコタンマツやチシマザクラなどの移植や、西側の通路スペースを一部駐車場とすることで、できる限り市民の駐車スペースを確保し、市民に迷惑がかからないような対応をしたいと考えている。

(L委員)

災害対応という観点から、5Gの通信回線の導入については検討される予定であるのか。

(事務局)

5Gのネットワークについては、行政だけで進められる問題ではないと思うので、携帯会社が基地局を整備し、こちらの地域にも普及されることになった場合に、そういった通信体制について検討を行っていきたいと思う。

(M委員)

災害時の備蓄倉庫について、旧庁舎の地階を活用するとの計画だが、今保有している備蓄品と、災害用備蓄倉庫の備蓄品を合わせて、スペース的に足

りるのか。おそらく近々に災害に見舞われる可能性が高い根室市だと思うので、防災的な意識を持って、いざというときに市の備蓄品を使える環境にしておかないとせっかくの施設も活用できない。おそらく市役所は人が集まる避難所とはならないと思うが、備蓄品に対する考え方をしっかりまとめたうえで倉庫を活用していただきたい。

(事務局)

現在市内には指定避難所が14施設あり、コンテナを配置し、ダンボールベッドや災害用テント、コロナ対策のパーティションなどの配置を優先的に進めている状況である。また、非常食について配置は行っているが、それが十分な数であるかどうかは、発生した災害がどういったものであるか、どれくらいの期間であるかなどの想定を含め、改めて考えなければならないと思う。また、千島海溝沿いの地震の被害想定は国から今年の春に示されたところであるが、それに基づく津波の浸水区域の想定は、北海道において今年度中にまとまるということを知っているため、それを踏まえて市としての備蓄の考え方を整理していきたい。

(C委員)

地下部分を備蓄倉庫として活用するにあたり、コロナ禍ということもあるが、このスペースでこれから計算する備蓄品は数量的に足りるものなのか。

(事務局)

基市内の14施設の避難所における想定避難者数は6,000人前後としており、この数に対応できるだけのものを備蓄していくというのは、災害規模の想定次第ということになる。基本的に旧庁舎の備蓄倉庫へ保管を考えているのは、この防災庁舎の中で利用するものである。災害時に職員が対応を行うにあたり使用する食料や資機材などを優先的に備蓄するほか、一時的に行き場のない方が新庁舎に来られることも想定しているので、そういった方のことも考えた備蓄を行う予定である。それ以外については市内の避難所などで共有して使えるものなどの保管を検討したいと考えている、

(C委員)

市内の避難所において備蓄が足りなくなった場合に、市の備蓄倉庫から補給を行うのであれば、そういった補給用の備蓄品なども併せて保管する必要があるのではないか。

(事務局)

そういった考え方も参考にさせていただき、今後よく検討を行っていきたいと考えている。

(B委員)

ペーパーレス化については、職員の取組みだけではなく、現在行っている市民の紙ベースでの手続きがオンライン化しない限り、ペーパーレス化には繋がっていかないのではないか。

(事務局)

現在根室市の電子申請については、導入状況が低いのが現状であり、ほとんどの手続きが電子申請に対応していないが、新庁舎が出来上がるまでには、具体的な取組みについて検討をしていきたいと考えている。

(A委員)

1%フォー・アートについて、よく見るのは駅などにある彫刻や壁や天井におけるアート作品であると思う。北海道新幹線が開業した新函館北斗駅においても、交通文化協会の企画によるパブリックアート作品が生まれたところである。

また、サイン計画においてもアメリカや北欧などでは非常に多く用いられており、資料としてお渡ししている、ノーベル賞を受賞した野依良治さんのスピーチにおいても、「1%の支援をすれば、土地や公共施設の資産価値は30%以上大きくなる」、「1%をもとに最大効果を産みだすのは若者たちの創造力と実行力」とあり、アート作品は建物を含め、次の世代に渡していけるものという考え方を持っている。

落石ふるさと館の資料については、落石の子どもたちが描いた絵をもとに

製作したガラスコラージュが掲載されており、ガラスコラージュは、小さなガラスを組み合わせて作るステンドグラスとは違い、地震などの際に剥がれて落ちる心配がないものである。私も審査員として2点の絵を選考したが、1つの作品は45年後の落石として、海からエレベーターが上っている様子が描かれており、保育所に通うお子さんや、会館に集う人についても地域の作品として、よりふるさとに対する思いやこれからの未来を感じることができると思う。このように、アート作品を公共施設の中に残すことや1%フォー・アートとしての考え方について提案させていただきたい。

(事務局)

いただいた意見については、内部でも協議を行っているので、今後の基本設計において検討を行っていきたいと思う。

(C委員)

予算がある話であるので、事務局や市議会とも議論を重ねていくことになると思うが、将来において後悔の残らないような庁舎となるよう検討をしていただきたい。

3. その他

(事務局)

今回の検討委員会においていただいた意見については、できる限り基本計画に反映させるように検討を行っていきたい。また、今後は議会への報告の後にパブリックコメントを実施する予定であり、基本計画自体については11月中旬くらいの策定を目指している。委員の皆さまには今後の基本設計についてご意見を伺いたいと考えており、12月から2月まで残り3回ほど会議の開催を予定している。第8回となる次回の会議については、新庁舎の具体的なレイアウトを皆さまにお示ししたいと思っている。詳細な日程については改めてお知らせしたいと考えているので、よろしく願いいたしたい。

4. 閉会